

講義コード	201010301		
講義名	データサイエンス入門		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 時限
特記事項	2025年度以降入学生対象		
履修年次	1 年		
科目区分	全学科目 キャリア形成（情報・データサイエンス）		

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 叢 日超	文化政策学部 文化政策学科

科目概要	<p>情報通信技術の発展に伴い、多量で多様なデータの取得が可能になった現在、データを用いて有益な知見を引き出す手法であるデータサイエンスの重要性が増している。本講義では、データサイエンスの役割について理解するとともに、現在と今後の情報社会に生きる者として必要なデータ収集の方法、データの読み方、データ分析の方法、データ活用の方法、データの表現方法について、様々な実例に触れながら学んでいく。また、現代社会におけるAIの活用について事例をもとに学ぶ。</p>
学修到達目標	<p>データサイエンス・AIの重要性を知る。 データ関連の基礎知識を理解する。 データの収集、処理、効率的な計算できるようになる。 コンピュータを用いて簡単な統計的分析ができる。</p>
DP（ディプロマポリシー）との関連	<p>文化政策学部【DP1（知識・理解）：○】 【DP2（汎用的技能）：○】 【DP3（態度・志向性）：-】 【DP4（総合的な学習経験と創造的思考力）：-】 デザイン学部【DP1（知識・理解）：△】 【DP2（汎用的技能）：○】 【DP3（態度・志向性）：△】 【DP4（総合的な学習経験と創造的思考力）：-】</p>
授業で使用する言語	<p>全て日本語で行う（留学生等に対しては必要に応じて英語でのフォローアップを行う）。</p>
授業の方法	<p>履修者が200人以下の場合には対面授業、これを超える場合には遠隔授業（オンデマンド型）とする。</p>
授業計画	<p>① ガイダンス、データサイエンスの必要性 ② 社会で活用されているデータ ③ データ・AI利活用の動向 ④ 社会調査の事例 ⑤ データ収集 ⑥ データの分析①変数と尺度 ⑦ データの分析②分布、代表値とちらばりの尺度 ⑧ データの分析③データの表現、可視化 ⑨ データの分析④単純集計とクロス集計 ⑩ データの分析⑤相関関係と因果関係 ⑪ 情報倫理：データ・AIを扱う上での留意事項 ⑫ オープンデータの利用 ⑬ データサイエンス・AIの事例紹介① ⑭ データサイエンス・AIの事例紹介② ⑮ データサイエンス・AIの事例紹介③</p> <p>*第13～15回の事例紹介：金融、ファイナンス、マーケティング、医療、産業等に関する応用事例を想定</p>

授業時間外の学習	事前学習：事前に配布した参考資料や動画などを予習して内容を深める（2時間前後）。 事後学習：提示する課題に対してレポートを作成して提出する（2時間前後）。
フィードバック	SUAC manaba の講評機能を用いてフィードバックします。
評価の方法・基準	与えられた課題についてレポートを作成し、レポートの提出回数及び採点（50%）によって評価する。 期末試験の成績（50%）を通じて評価します。 ※詳細は、初回の講義にて説明を行う。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。
テキスト	教科書は使用せず、資料等は SUAC manaba で配布します。
参考文献	講義の中で、適宜紹介する。
受講上の注意事項	受講には、Windows PCおよびWord, Excelが使える環境を用意してください。本学図書館および情報処理演習室のPCも利用可能です。 講義の進め方の詳細については、初回講義の資料で説明します。履修登録して、SUAC manabaで資料を見てください。 講義の時間帯は407情報処理演習室が本講義の受講者専用として割り当てられます。
外部公開 ※「△（教員への申し出が必要）」の科目については上記の「受講上の注意事項」の記載内容をよく確認すること。	
他学部他学科の学生の履修	○（履修可）
静岡大学情報学部単位互換制度の学生の履修	×（履修不可・対象外）
社会人聴講生・科目等履修生の履修	×（履修不可・対象外）
授業に関する実務経験	実務経験：国立環境研究所で研究開発業務に4年間携わる 実務経験に関する授業内容：社会で活用されているデータ、社会調査の事例、データ収集、データの分析、情報倫理、オープンデータの利用などについて講義する。
連絡方法	質問・相談がある場合にはメールで連絡すること。その際のメールアドレスはSUAC manabaを参照すること。